

家空間の現象学的分析 (梗概)

友田 博通

—— 空間・心理・イメージ対応の計画試論 ——

はじめに

寝て食べてくつろぐといった機能対応の計画論は、夫婦+子供2人・3LDK90m²といった定型をみて、その役割を一応果たし終えた。確かに、90m²100m²を超える規模の住宅についても、nLDK型の延長上で、「広さ要求・部屋数要求」に対応した計画論も無効とは言えない。しかし、そこには機能というよりは心理的な「ゆとり・豊かさ・楽しさ・変化等々」といったものが重要な位置を占めると感じられる。

この心理の問題を扱うと、空間と機能の対応といった図式は大きな矛盾を包含していることに気づく。環境心理学の立場では空間と心理の対応を前提とするが、空間と機能・空間と心理が対応すると「機能と心理も対応」することになり、特定の行為は特定の気分でとおかしな関係が生じてしまう。空間と心理の対応を前提とした設計方法は、同じ行為に際してもAの気分の時はaの空間で、Bの気分の時はbの空間でと、居住者の心理に対応した住空間を想定することになる。

そこで本研究では、1章 伝統的家空間・2・3章 現代型の家空間・4章 憧れ世界の家空間について、空間と心理の対応を軸に調査分析を行い、以下の項目を追求する。

- ①住宅に求められる心理的空間とは何と何か。
- ②心理的空間群をどんな形で構成すべきか。
- ③家全体のイメージはどうあるべきか。

本研究では、家空間全体のイメージを最終の操作概念として、90m²100m²を超える住宅の計画方法論の構築を行うとともに、その理論の応用例としていくつかの具体的な今後の住宅への提案を行おうとするものである。

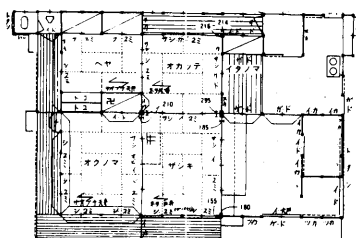


図-1 農家の平面図の例



写真-1 農家の土間

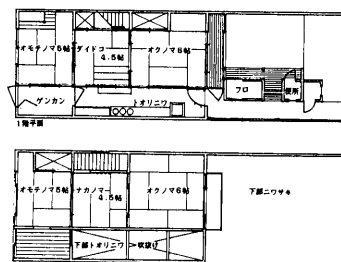


図-2 町家の平面図の例



写真-2 町家の通り庭

第1章 伝統的家空間の意味作用

現代型住宅を位置づけるため、伝統的住宅が与える心理的影響(意味作用)を、川崎の農家・京の町家・同潤会の茶の間型住宅・韓国の中庭型に居住していた人を対象にアンケート調査を行った。質問を以下に示す。

「子供の頃の家で、印象深い場所(印象に残る・フツと
思い出す・夢に出てくる)はどこですか。」

「また、そこでの出来事・印象を記入してください。」

「子供の頃の家で、^{こわ}怖い・楽しい・悲しい・落ち着く印象を受ける場所はどこですか。」

「また、どのような思い出がありますか。」

1. 庶民住宅の系譜—農家・町家—

川崎の農家では、印象深い場所として、土間・奥の間座敷・廊下縁側が挙げられる。土間は、人が集まり遊び囲炉裏で餅や栗を焼いて食べるなどの日常生活の場であるとともに、吹抜けや床の土や大黒柱やへっついなどが思い出され、ヒンやりと包み込まれるような空間と感じられている。これに対し、奥の間は、入ってはいけな非日常的象徴的な場であり、仏壇、先祖の額、葬式などを思い出し、悲しい・怖い・落ち着く空間と感じられている。廊下縁側は、おばあさん・友達・遊んだなど多用途共用の場であり、日当たり・庭の眺めなどを思い出し、楽しい・落ち着く空間と感じられている。

これらのことから川崎の農家は、日常生活空間と一体になった吹抜けで内に籠もったホールの空間を中心として、伝統を継承する非日常象徴空間、外に開けた共用空間により、居住者は家をイメージすると考えられる(図-1・写真-1・表-1)。

京の町家では、印象深い場所として、台所・階段・2階・奥の間が挙げられ、日常生活の中心的な場となる中の間はほとんど挙げられなかった。台所は、通り庭の一部で動線の中心であり、吹抜け・天窗・井戸・おくどさんなどを思い出し、楽しい日常生活の場から眺める空間となっている。2階の部屋は、私生活の場であり、箱階段・屋根裏・自分の机などを思い出し、独立性の高い落ち着く空間となり、奥の間は、格式性のある場であるとともにだんらんや就寝の場ともなり、庭先・仏壇・縁側・床の間などを思い出し、印象としては悲しい・楽しい・落ち着くなど、多様な印象を持つ空間となっている。

これらのことから京の町家は、日常生活の場と一体化し内に籠もった吹抜けの動線空間を中心として、独立性の高い空間、外に開けた非日常と日常が共存した象徴空間により、居住者は家をイメージすると考えられる。(図2・写真-2・表-2)。

これら2つの庶民住宅の特徴を以下に整理する。

- ①日常生活の場である食事だんらんスペースと一体となった台所や作業・動線空間で、内に籠もった吹抜けの土間が、印象深い空間となり家の骨格をなしている。
- ②内に籠もった空間に対して、外に開けた空間が印象深い空間として挙げられる。
- ③日常生活空間と同時に、非日常象徴空間が印象深い空間として挙げられる。
- ④農家は家族一体的な生活、町家は独立性の高い私室群が2階にあり公私分離の生活となっている。

表-1 川崎の農家空間の意味作用

(単位:回答数)

	土間	勝手	奥の間座敷	縁側	納戸	便所
印象に残る	10	1	1	2	1	1
フットと思う	6	0	5	1	1	0
夢に出る	3	0	2	1	0	2
楽しい印象	4	7	1	5	0	0
落ち着く	1	6	2	4	0	0
恐いと感じた	0	0	2	0	3	8
悲しい印象	2	0	4	0	1	1

表-2 京の町家空間の意味作用

(単位:回答数)

	台所	中の間	奥の間	2階	庭	便所
印象に残る	9	1	2	3	5	0
フットと思う	6	0	3	3	2	0
夢に出る	3	1	0	2	1	0
楽しい印象	4	8	3	2	2	0
落ち着く	0	1	3	11	1	0
恐いと感じた	0	0	0	1	3	8
悲しい印象	1	2	2	2	0	0

2. 現代型住宅への系譜—中廊下型・茶の間型—

中廊下型は建替更新等が激しい都市住宅のため、地区・形式・年代を特定した調査ができなかった。自己申告による平面から中廊下型と推定できる例を見ると、やはり中廊下が印象深い空間として挙げられる。中廊下は、途中に開かずの間の戸が面している、玄関に人が訪ねてくる様子がわかる、夏の涼しい昼寝、3段跳びや追い掛けっこなどが思い出として挙げられる。農家や町家と同様に中廊下型の中廊下も日常生活の場と一体化し、内に籠もった家の骨格となっている。しかし、床は板敷で天井は低く、空間的迫力は暗く線的な長さで面する部屋の性格により規定される。

同潤会の茶の間型住宅は、中廊下型住宅を基本に規模が縮小した型で、印象深い空間として短くなった中廊下はほとんど挙げられず、茶の間・縁側・玄関が挙げられる。茶の間は、みんなで食事・いつも両親が居てなど日常生活の場で、こたつ・卓袱台・神棚などが思い出され、楽しい落ち着く空間となっている。縁側は、遊び・庭を見ながらと多用途共用の場で、日当たり・勉強机などを思い出し、楽しい空間となっている。玄関は、父の出迎え・お客様・正月といった格式の高い場であり、広い・堂々・ピカピカの床などが思い出される。

これらのことから同潤会の茶の間型住宅は、外に開かれた縁側や格式空間としての玄関は印象深い空間として残るが、一番印象深い場所として挙げられた茶の間は家族の思い出を中心とした日常生活のみが意識され、空間の印象はほとんど意識されない(図-3・表-3)。

現代型住宅は、印象深い空間として居間・自室がほとんどで、その内容も家族みんな・暖かい雰囲気・よく居たなど家族との思い出や行為が多く、空間的な印象はほとんど挙げられない。

表-3 同潤会の茶の間型家空間の意味作用

(単位:回答数)

	中廊下	茶の間	玄関	客間	縁側	居間
印象に残る	3	11	6	1	10	3
フットと思う	0	7	4	3	5	2
夢に出る	1	3	2	0	0	1
楽しい印象	6	17	1	1	9	6
落ち着く	1	15	0	3	1	6
恐いと感じた	1	0	1	2	0	0
悲しい印象	0	4	0	4	0	2

3. 伝統的形態の残存の意味—韓国と日本—

日本の現代型住宅は、伝統的な中廊下型から変化したとみることでもできる。その中間には、茶の間型住宅、町の建売り住宅を挙げることでもできるが、Lホール型に相当するモダンリビングは普及しなかった。

これに対し韓国の住宅は、伝統的な中庭型の韓屋から、

Lホール型へと変化するとみられる。その中間には、日本の中廊下型や米国のLDKワンルーム型が影響したとみられる例もあるが、これらは普及しなかった。

韓国の伝統的中庭型住宅は、印象深い空間として、中庭・マル・コノンバンが挙げられる。食事・だんらん・主寝室と日常生活の中心となるアンバンは、落ち着く空間と意識されるが印象深い空間としては挙げられない。中庭は、遊び・食事・水浴びなど夏の日常生活の場で、井戸・お花畑などを思い出し、夏の楽しい空間と感じられる。半屋外空間であるマルも中庭と同様に、夏の食事・遊び・勉強・寝ると夏の日常生活の場で、米びつなどが思い出される。コノンバンは、子供室として使われ、隠れてといった内容の行為（焼き芋・歌など）が多く独立度の高さが感じられる（図-3・表-4）。

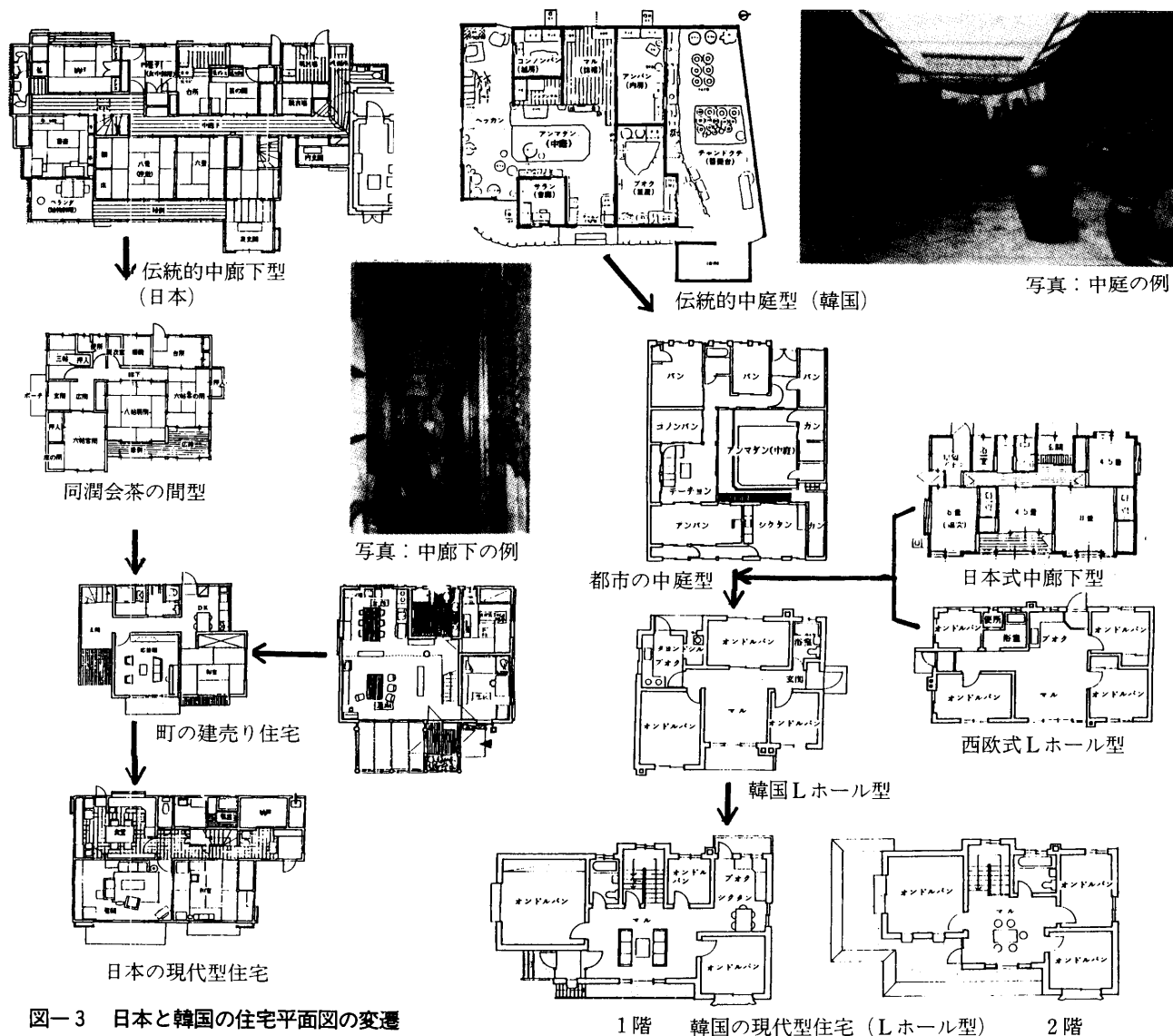
韓国の住宅研究者は、韓国の現代型住宅のLを伝統的中庭型の中庭の代替えと解釈する。確かに韓国の現代型住宅におけるLはほとんど使われず、日常的な食事・だんらん・接客はアンバン（主寝室）で行われ、2階建の住宅ではLは2階にも存在する。しかしLホール型のL

は、本来の屋外空間としての中庭や半屋外空間としてのマルと性格が異なり、夏に特別な雰囲気を持つ空間ではない。また、マルのような象徴性を持つ空間でもない。単に西欧的なリビングの使われ方に順応するための、納得の仕方なのかもしれない。同様に、日本の現代型住宅の中途半端な廊下が、日本の伝統的な中廊下の残存形態と言えるであろうか。印象深い空間という意味では中廊下は既に茶の間型住宅でその意味を失っていた。

表-4 韓国中庭型の家空間の意味作用

(単位: 回答数)

	中庭	マル	アンバン	コノンバン	ブオク	タラク
印象に残る	10	6	0	6	3	5
フツと思う	5	0	2	3	2	0
夢に出る	1	5	2	0	0	0
楽しい印象	12	4	4	3	4	0
落ち着く	1	4	12	4	0	2
恐いと感じた	0	0	0	0	0	0
悲しい印象	2	1	2	1	4	1



第2章 現代型住宅における単位空間の構成手法

韓国のLホール型・日本の公私分離型といった単位空間の構成手法、農家や町家に見られる吹抜けを利用した立体的単位空間の構成手法を検討するため、様々な単位空間の構成手法を用いた多摩NTT〈南大沢〉を対象にアンケート調査を行った。質問を以下に示す。

「夫婦寝室と居間は近いと感じますか。

イ. 近い ロ. 遠い ハ. その他」

「良い悪いという意味ではどうですか。

イ. 良い ロ. 悪い ハ. その他」

同様に「夫婦寝室と子供室、居間と子供室は…」

「家に帰って夕食まで、主にどの部屋ですごしますか。

イ. 大部分居間に居る ロ. 居間自室半々

ハ. 大部分自室 ニ. その他」

表一五 夫婦寝室と居間の関係

(単位：人)

	主人					主婦									
距離感	遠	遠	普	近	近	近	?	遠	遠	普	近	近	近	?	合
評価	?	良	良	良	?	悪	?	?	良	良	良	?	悪	?	計
公私分離	1	5	2	4	0	0	2	0	5	4	2	2	0	1	14
Lホール	0	0	1	10	2	2	1	0	0	1	7	5	1	2	16
1室外れ	0	0	1	3	2	2	0	0	0	1	3	3	0	1	8

表一六 夫婦寝室と子供室の関係

(単位：人)

	主人					主婦											
距離感	遠	遠	遠	普	近	近	近	?	遠	遠	遠	普	近	近	近	?	合
評価	悪	?	良	良	良	?	悪	?	悪	?	良	良	良	?	悪	?	計
公私分離	0	0	0	1	7	1	5	0	0	0	0	0	5	6	2	1	14
Lホール	0	1	3	1	8	0	2	1	0	1	1	0	7	2	1	4	16
1室外れ	1	2	0	1	2	0	2	0	0	0	0	2	2	1	0	3	8

表一七 1室外れLホール型・子供室と居間の関係

長子	性別・年齢	f5	f6	m6	f16	m20	f22	m24	f26	次子	f3	m4	m3	f14	f16	m18	f18	評	f(女)	子(女)	〇(女)	〇(女)	〇(女)	評	m(男)	子(男)	〇(男)	〇(男)	〇(男)		
概要	距離・評価	— 近良 —					— 近悪 —																								
主人	距離・評価	近良	近良	近良	近良	近良	近?	近良	??	近良	??	近良	近?	近良	近普	近良	??														
主婦	距離・評価	近良	??	近良	近?	近良	近普	近良	??	近良	??	近良	近?	近良	近普	近良	??														
長子	距離・評価	—	—	近?	近良	近良	遠普	??	近悪	—	—	近?	近良	近普	近良	??															
次子	距離・評価	—	—	近悪	近?	近普	近悪																								

表一八 公私分離型・子供室と居間の関係

長子	性別・年齢	m1	m1	f.2	f.7	m.7	m.8	f.8	f.10	m.11	f.12	m.13	m.14	m.16	m.17	
次子	性別・年齢			f.0	m.5	f.4	m.5	f.6	f.9	m.6	f.10	f.11	f.13	f.13		
概要	距離・評価	← 遠良		遠悪										遠 良良		
主人	距離・評価	遠良	遠良	遠悪	遠悪	近良	近良	近良	近?	遠良	遠普	近良	他他	遠良	?	良
主婦	距離・評価	遠良	普通	遠悪	遠悪	近良	遠良	近良	遠悪	遠良	近良	近良	遠良	遠良	??	
長子	距離・評価	—	—	—	—	遠悪	遠良	—	遠悪	近良	近良	近?	遠良	遠良	普良	
次子	距離・評価	—	—	—	—	遠良	遠?	—	遠良	—	近?	遠良	遠良	近悪		

表一九 Lホール型・子供室と居間の関係

長子	性別・年齢	m.2	f.4	m.4	f.5	f.5	m.5	m.6	m.6	m.7	m.7	f.9	f.11	f.11	m.13	m.16	m.17
次子	性別・年齢				f.3	f.3	f.2	f.3	f.3	f.4	m.8	f.8	f.9	f.7	f.14	m.16	
概要	距離・評価	近良										近良		近悪—			
主人	距離・評価	近良	近良	近良	近良	近良	近良	近良	近悪	近良	近良	近良	近良	近?	近良	近悪	
主婦	距離・評価	近?	近良	近良	近良	近良	??	近良	近良	近良	近良	近良	近良	近?	近良	近悪	
長子	距離・評価	—	—	近?	近良	—	—	近良	—	近良	—	近良	近良	近良	近悪	近悪	
次子	距離・評価	—	—	—	—	—	—	—	—	近良	—	—	近良	近良	近悪	普良	

1. 公私分離型とLホール型

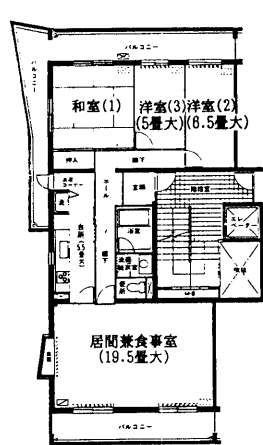
現代の日本の住宅は公私分離型が多く、集合住宅では図一四の廊下の両端に居間と私室群のある例が典型である。これに対し韓国で見られるLホール型は、玄関から居間を通して各私室に入る形式で日本には少ないが、〈南大沢〉に図一五・六の例があった。

夫婦寝室と居間は、公私分離型は「近い良い」が多く、Lホール型は「近い良い」が多い(表一五)。

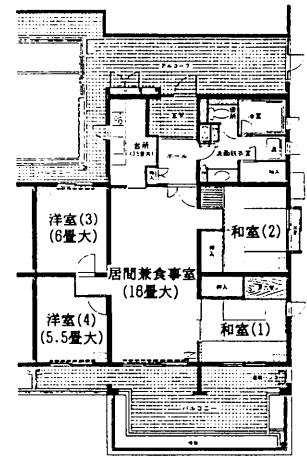
夫婦寝室と子供室は、Lホール型は「近い良い」が多いが、公私分離型は「近い悪い」も多い。Lホール型は、居間をはさんで夫婦寝室と子供室をとる傾向がみられ、この関係が緩和できている(表一六)。

子供室と居間は、子供の年齢との関係が強い。公私分離型は、2～8歳で「近い悪い」、11歳以上で「近い良い」となり、Lホール型は、11歳以下は「近い良い」、16歳以上は「近い悪い」となった(表一八・九)。

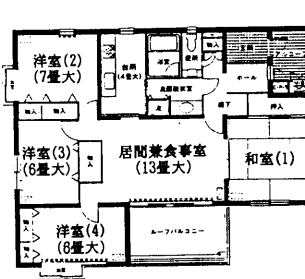
子供室の利用にも年齢との関係がみられる。公私分離



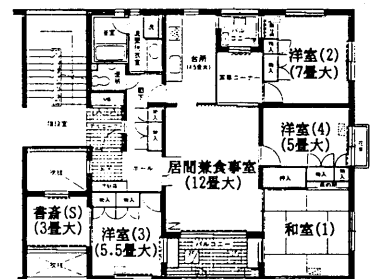
図一四 公私分離型



図一五 Lホール型B

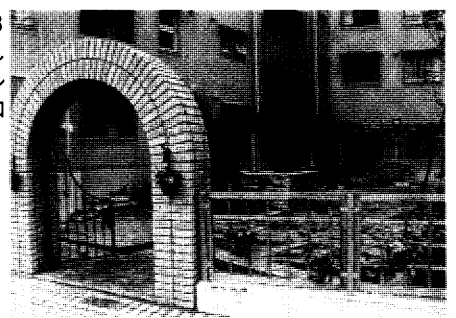


図一六 Lホール型A



図一七 1室外れLホール型

写真一三
1室外れ
Lホール
型の入口
中庭



型は、大部分居間・大部分自室と答え子供室を利用しない例も多い。これに対しLホール型は、13歳以上は大部分自室だが、4歳から11歳までは居間自室半々が多い。

これらのことから、以下のことが整理される。

- ①公私分離型はLホール型より、10歳以下の子供の居る家庭で居間と子供室の関係を悪いとする例が多く、子供室をほとんど利用しない例も多い。
- ②公私分離型は11歳以上の子供は居間と子供室の関係を良いとし、Lホール型は16歳以上の子供は悪いとする。
- ③公私分離型は子供の年齢に関わらず主寝室と子供室の近いことが嫌われる。

また、小さい子供向けのLホール型と大きい子供向けの公私分離型という長所短所の明確な2つの型に対して、Lホール型を基本としつつ1室だけ居間を通り抜けない部屋を持つ型（1室外れLホール型）も調査を行った。この型は入居者が子供の年齢の高い例と低い例が混在し、どちらの例にも適合する傾向がみられる（図-7・写真-3・表-5～7）。

2. L吹抜けを利用した立体的な室配置

南大沢団地には、公私分離型で別に2階に居間の吹抜けに接した屋根裏室を持つ公私+屋根裏室型（図-8・9・写真-4～6）、独立した和室と他のすべての私室が居間の吹抜けにある階段や空中廊下面に面するLホール立体型（図-10・写真-7・8）があり、これを調査した。

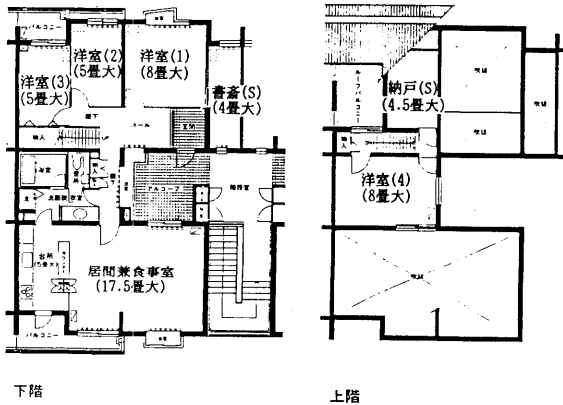


図-8 公私+屋根裏室型（廊下入り依存型）

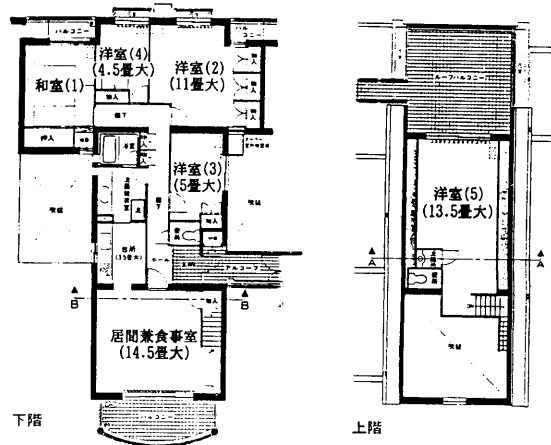


図-9 公私+屋根裏室型（居間入り独立型）



写真-4 廊下入り依存型居間



写真-5 居間入り独立型階段



写真-6 独立型屋根裏室

公私+屋根裏室型の屋根裏室には、廊下から階段で入る廊下入りと居間から階段で入る居間入り、便所や水回りがある独立型と部屋だけの依存型に分類される。

廊下入り依存型の屋根裏室は、長女13歳の私室の場合吹抜けから居間の両親が見え楽しいという記述も見られ、動線的に独立するが家族との疎外感はない。逆に、長男23歳の私室では居間からの音をうるさく感じており、この年齢では完全な独立性を求めるようである。

居間入り独立型は、長男5歳以下子供3人の家族が、居間と屋根裏室のみを使い、廊下により切れた私室群をほとんど使っていない例がある。また、疎外感をいやがる単身の老人でも屋根裏室を利用できている例もあって、居間に階段が面することを肯定する意見が多い。

廊下入り独立型は独立度の高さが明確で、3世代住宅とした2例、長女18歳の私室となった例は評価が高かった。しかし、祖母の老人室としては隔離され過ぎている、子供室としては問題などの意見が見られ、独立度が非常に高いことが評価を2分させる。

Lホール立体型は、居間に面しない和室を夫婦寝室にし子供は居間に面する部屋を使う例が多く、この場合、夫婦寝室と居間の関係は近い良い、子供室と居間の関係は15歳以下の子供でも普通・近い良いとし、また、居間に面した2階洋室を夫婦寝室とした例でも遠い良いとする。2階の洋室は居間に面していても2階にあるため独立性が意識され評価されている。

第3章 心理的空間と家のイメージ

多摩NT〈南大沢〉では、単位空間の構成手法ばかりでなく、単位空間に様々な空間の特徴が用意されている。各型について心理的空間を抽出し、心理的空間と家全体のイメージについて検討する。質問は以下に示す。

「家の中で一番気に入っている場所はどこですか。」

「どんなところが好きですか。」

「二番目に気に入っている場所はどこですか。」

「どんなところが好きですか。」

「最初にこの家の中をご覧になった時、どのようなイメージがしましたか。」

1. 明確な空間的特徴のない場合

居間が吹抜けではない公私分離型・Lホール型、1室外れLホール型はいずれも、気に入った場所の1位に圧倒的に居間を挙げ、すべての型は共通して「広い・明るい」とする。また、公私分離型では「多目的」、Lホール型では「子供のために良い・どこの部屋にもすぐ行ける」といった印象がみられる。

気に入った場所の第2位には私室を挙げる例が多く、和室は「畳が落ち着く・気持ちいい・掘りこたつ・床の間」、洋室の場合は「広い・明るい・独立性・天井高い・出窓・収納が多い」などの印象がみられる。

家全体のイメージは、インテリア空間に明確な特徴の

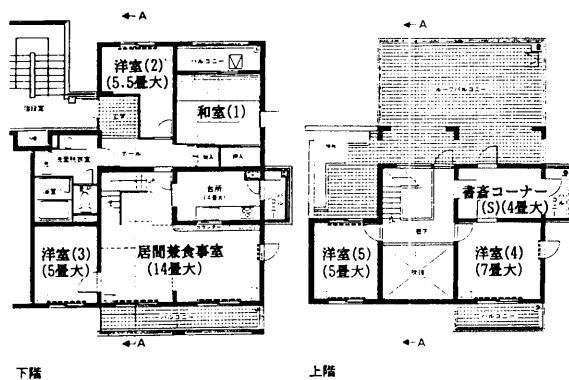


図-10 Lホール立体型

ない場合、外部空間の特徴が大きな影響を与える。

公私分離型は外部空間についても明確な特徴がなく、「日当たりが良い・使いにくい・廊下が長い・しっかりしている」といった機能上・実用上の表現が多い。

1室外れLホール型は、中層住棟が小さな中庭を囲み、門・ホルンを吹く鉄製の人形・白い花台があり、主婦「軽井沢のペンション・クラシック音楽の似合う家・高原の別荘・金曜日の妻たち」、子供「小公女セーラ・ママはアイドル・赤毛のアン」がイメージされる(写真-3)。

Lホール型Bは、斜面住宅で居間の前に植栽された広いバルコニーを持ち、主婦「都会的・ニューファミリー・外国の家・日本の住宅の熟成度」などを挙げる。

2. 居間吹抜け・居間階段・屋根裏室・ガラス屋根

居間吹抜けタイプで、公私+屋根裏室型と、Lホール立体型、Lホール型C(ガラス屋根、図-11・写真-9)では、気に入った場所の1位に居間を挙げる。「広い・明るい」のほか「開放的・気分が豊か・気持ち広くなる・落ち着く・のびのび・せいせい」など居間吹抜けの印象がみられる。

気に入った場所の2位には、明確な空間の特徴のある部屋や部分が挙げられる。

私室になりうる屋根裏室は、「独立性・広い」のほか「居間が見える・ワンルームマンション・開放感」、Lホール立体型の私室は「独立度大」の印象もみられる。

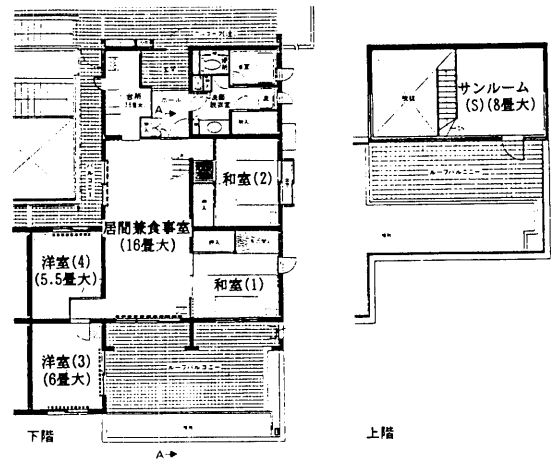


図-11 Lホール型C(ガラス屋根)

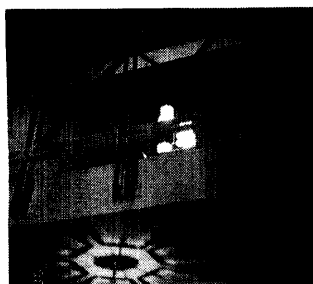


写真-7 空中廊下

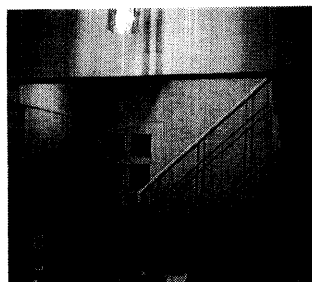


写真-8 居間階段



写真-9 ガラス屋根

これに対し、私室にならないサンルームは「明るい・景色が良い・余裕の空間」、玄関パテオは「玄関や廊下から見える」、居間階段や空中廊下は「新鮮・おもしろい・カッコいい」などの印象もみられる。

これらのインテリア空間の特徴（気に入った場所＝印象構成要素）と家全体のイメージの関係をみると、やはり強い影響関係がみられる（表-10）。

公私+屋根裏室型（写真-4～6）の廊下入り依存型は、巨大な居間吹抜け・屋根裏室・玄関パテオが意識され、主婦「広い・ヨーロッパのアパート」、主人「奇想天外・若い・天井が高い・ポストモダン」、子供「ママはアイドル・少女趣味・普通の家」がイメージされる。

居間入り独立型は、居間吹抜け・居間入り階段・屋根裏室が意識され、主婦「金持ちの家・金曜日の妻たち」、主人「公団と違う」、子供「ママはアイドル」。

Lホール立体型（写真-7・8）は、居間吹抜け・居間入り階段・空中廊下・2階私室が意識され、主婦「ゆとり・リゾート気分・こり過ぎ」、主人「ポストモダン」、子供「大草原の小さな家・ママはアイドル」。

Lホール型C（ガラス屋根・写真-9）は、居間の吹抜けとサンルームにかかるガラス屋根とバルコニーが意識されるが、主婦「町工場・窓が広く多い・明るく開放的」とバルコニーよりガラス屋根の影響が強く現れる。

第4章 若年層の意識からみた家空間の展望

1. 憧れの住宅イメージ

「〇歳の頃、どんな家に憧れましたか。

あなたが、現在憧れている家はどんな家ですか。

イ. 童話に出てくる家 ロ. テレビ・広告で見た家
ハ. 友人や近所の家 ニ. その他
具体的にはどんな家ですか。」

5歳の頃は「童話に出てくる家」「お菓子の家・お城・丸太小屋」と童話の世界に憧れる。

10歳の頃は「テレビ広告で見た家・友人や近所の家」「広い・庭がある・都心の・何千万とする」と両親の影響が強くなり、憧れは現実世界の家へと対象を変える。

15歳の頃は「テレビ広告で見た家」「プール付・ロフト付・コンクリート剥き出し・室内に大きな観葉樹・黒で統一」など具体的で内容はデザイン面へまで及ぶ。

20歳の頃は「テレビ広告で見た家」「建築家の建てた個性的な家・人目を引く家・大き過ぎず小さ過ぎない家・今の自分の家で十分」と、他の人とは違う家を望む差別化思考と、大きな夢は諦める現状肯定もみられる。

30～40代では「大きな窓ガラス・一部吹抜け・パーティのできる広い・シンプルで主張のある家」と実現可能な範囲での堅実な夢を語る。人間は成長段階に対応した家

表-10 印象構成要素と家のイメージ

(F:主婦, M:主人, mf:子供, 単位:人)

住居形式	印象構成要素	F M mf	要素の印象	家のイメージ(主婦)	家のイメージ(主人)	家のイメージ(子供)
公私分離型	居間	6 7 8	広い ゆったり 多目的に	金曜日の妻たち(1/7) 広い・日当たりが良い 廊下が長い・しつかり	公団と違う(2/7) ポストモダン 公団住宅だ・広い	広い(1/8) 変わっている ホールみたい
	中洋室	3 3 3	独立性 自室 天井高い			
Lホール型A	居間	7 6 5	広い 明るい 子供のためによい	金曜日の妻たち(1/7) 光があふれる	公団と違う(2/7) ポストモダン(4) 広い	広い(2/6) 暑い・日当たりが良い 外国みたい
	南和室	2 3 1	畳が落ち着く 気持ちいい			
	南洋室	0 2 4	遊ぶ部屋 出窓 サンルーム隣			
Lホール型B バルコニー付	居間	5 7 0	広い 明るい 開放的	金曜日の妻たち(1/8) 都会的・NEW FAMILY 外国の家・日本の熟成度	公団と違う(3/7) シンプル	小公女セーラ(1/3)
	バルコニー	4 2 1	広い 日当たり良 花壇 手入れ			
1室外れ Lホール型 メルヘン風 の中庭有り	居間	4 6 3	広い どこか部屋にもすぐ行ける	金曜日の妻たち(1/12) 恋はパラダイス 軽井沢のペンション クラシック音楽が合う	公団と違う(5/12) ポストモダン(1) 公園住宅 隣棟に近い・暗い	ママはアイドル(2/12) 小公女セーラ(4) 赤毛のアン・テレビマン マンション・広い
	前室付洋室	2 1 8	広い 収納多 天井高い 明るい			
公私+ 屋根裏室型 廊下入り依存型	居間	5 8 3	吹抜け 広い 開放感 気分豊か	金曜日の妻たち(2/8) 広い 狭い	ポストモダン(4/8) 若い・奇想天外 広い・天井高い	ママはアイドル(3/7) 少女趣味 広い・普通の家
	2階洋室	3 2 3	独立性 広い 居間が見える			
公私+ 屋根裏室型 廊下入り独立型	居間	6 6 3	吹抜け 広い 落ち着く のびのび	金曜日の妻たち(1/6) ヨーロッパのアパート 広い(2)	公団と違う(3/6) 日本離れ・モダン 広い	広い(1/5) ヨーロッパ 空気がうまい
	2階洋室	1 2 3	独立性 ワンルームマンション			
公私+ 屋根裏室型 居間入り独立型	居間	5 4 5	吹抜け 気持ち広い せいせいする	金曜日の妻たち(1/5) 恋はパラダイス(2) 金持ちの家	公団と違う(3/4) 戸建住宅	ママはアイドル(4/6) 広い(2)
	2階洋室	1 2 3	広い 開放感 ルーフテラス広い			
Lホール立体型	居間	4 3 3	吹抜け 広い 景色良 カウンター	リゾート気分(1/5) ゆとり こり過ぎ	公団と違う(3/4) 公団住宅	ママはアイドル(1/5) 大草原の小さな家
	上大洋室	1 2 2	広い 書斎付 独立度大			
	階段廊下	2 0 2	新鮮 おもしろい カッコいい			
Lホール型 ガラス屋根 バルコニー付	居間	4 2 2	吹抜け 明るい 広い 開放的	金曜日の妻たち(1/6) 町工場・戸建 明るく開放的	公団と違う(3/6) ポストモダン(2) 公団そのもの	ママはアイドル(1/6) 窓が広く多い 広い
	サンルーム	1 4 3	明るい 景色良 余裕の空間			
	バルコニー	4 3 0	広い 日当たり良 花壇 手入れ			

に憧れ、現実との距離を近づけ・具体性を高めていく。

男女差については、大学生以下で、男子は「機械の家・未来の家」などの未来志向、女子は「自然の中の家・湖のほとりに建つ丸太小屋」など自然メルヘン的な志向が、30～40代では、男女差は少なく、主婦に「機械的なデザイン・食器洗い機付ドイツ製システムキッチン・収納スペース」などの家事機能志向がみられる。

時代差については、現代の住宅購入層である30～40代は「機能的デザイン・システムキッチン・壁はグレーでモノトーン・間接照明・吹抜け階段と丸くカットしたりビング」などの近代合理主義志向、「白い外壁赤れんがの家・玄関のステンドグラス・パティオのある家・池のある広い中庭・ペパーミントグリーン洋館の家・サンルーム付・広いバルコニー」など、建売りやプレハブ住宅のキャッチフレーズへの志向もみられる。これに対し、大学生は「三角屋根・豪華な家具・回り階段・シャンデリア」などの装飾志向、小学生は「最新のものや家具やシステム」などの超近代志向もみられる。

2. 絵による住宅選択 (図-12～19)

「絵のような雰囲気の家を見たことがありますか。

絵の部屋を見てどんな生活をイメージしますか。

どこで見ましたか。

- ア. 童話の中の挿絵
- イ. テレビアニメ
- ウ. テレビドラマ・映画
- エ. テレビの外国紹介
- オ. コマーシャル
- カ. その他

そのタイトルは何ですか。

この家の印象に当てはまる数字に○を付けて下さい。」

家の外観は、大学生女子は1位に「丸太」2位に「機

能」を住みたいとし、大学生男子と30～40代男子女子は1位に「機能」、2位に「フラット」「丸太」を住みたいとする。「丸太」は、「クラシカル・夢がある・童話をイメージさせる・素朴」などの印象が強く、自然メルヘン志向の大学生女子に好まれる。また、「フラット」は「機能」と印象上は同じような傾向を示している。

居間のインテリアは、すべての群が1位に「自然」を住みたいとする。2位・3位に、大学生女子は「機能」「和風」、大学生男子は「モダン」「機能」、30～40代男子は「機能」「和風」、30～40代女子は「機能」「居間階段」を住みたいとする。また、30～40代男女では「自然」と「機能」は差がなく住みたいとされたが、大学生男女では「自然」のほうがだいぶ住みたいとする傾向がみられる。「自然」「モダン」「居間階段」は居間が吹抜けで、居間の吹抜けはかなり好まれている。(図-20～23)

〔住みたさ〕を外的基準として数量化I類により多変量解析すると、30～40代のインテリアと外観、大学生のインテリアは、レンジ1位に〔夢がある〕、2位に〔メディア〕が挙がり、強い影響因子であることがわかる。

この結果は、まず、〔夢がある〕住宅を特定することは難しいが、住宅を見て〔夢がある〕と感じると〔住みたい〕と答える傾向があることを示している。(表-11)

次に、〔メディア〕は、家の外観は『童話』『テレビアニメ』を連想させるものが好まれず、インテリアは『アニメ』『コマーシャル』を連想させるものが好まれず『外国紹介』は好まれる。また、一般的に〔メディア〕としては30～40代大学生とも『TVドラマ・映画』を介してインテリアや外観を連想していた。

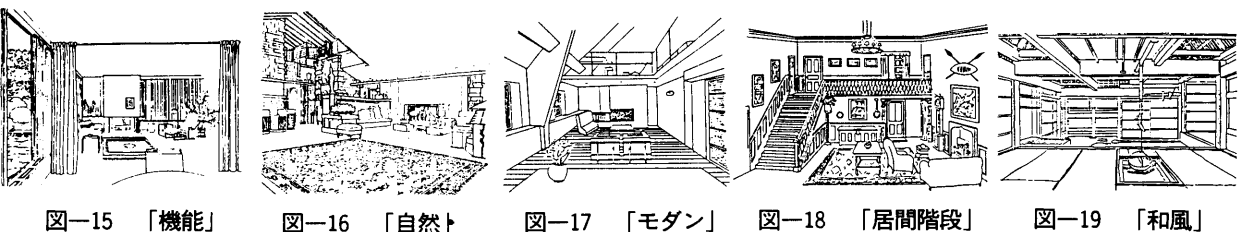
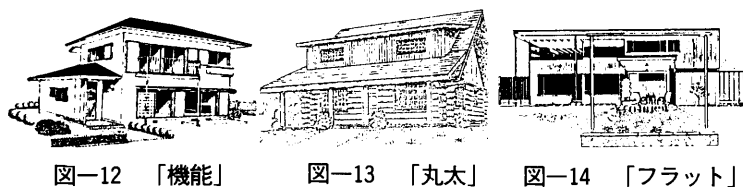
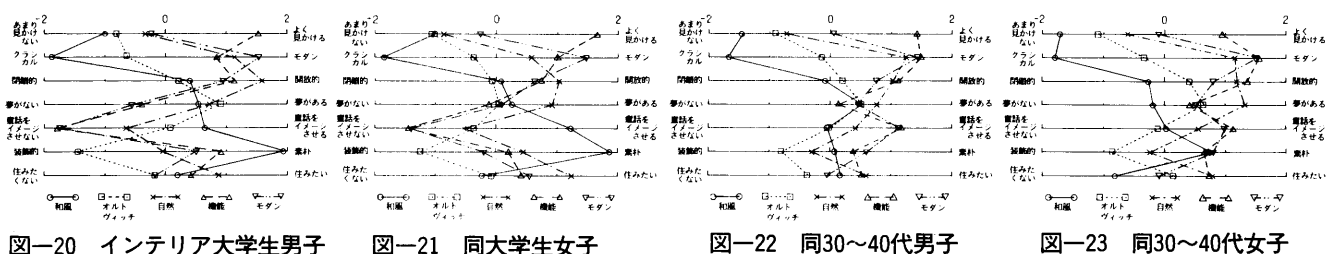


表-11 住みたさとの関連性 (数量化I類)

順位	アイテム名	レンジ	アイテム名	レンジ
1位	Q33 コマケアル	1.2344	Q33 コマケアル	1.9280
2位	Q20 メディア	1.0345	Q20 メディア	1.0697
3位	Q31 モダン	0.8083	Q1 シャンNO	0.7551
4位	Q1 シャンNO	0.6173	Q35 ソボク	0.4761
5位	Q32 カイロワチ	0.5055	Q31 モダン	0.3594
6位	Q30 ミカケル	0.4932	Q32 カイロワチ	0.3176
7位	Q35 ソボク	0.4224	Q30 ミカケル	0.2253
8位	Q34 トワワチ	0.4024	Q34 トワワチ	0.2180



考察 空間・心理・イメージ対応の計画試論

1. 現代型住宅の問題点と課題

日本の伝統的な農家や町家、現代型住宅へ通じる中廊下型と比較すると、現代型住宅の問題点が挙げられる。

①現代型住宅の廊下は、居間と私室の「独立性」のために通り抜けを防ぐ必要最小限の短い動線となり、空間的迫力を喪失し、「家の骨格」としての意味を失った。

②現代型住宅の単位空間である居間、私室は、「内に籠もる・外に開く」「独立・開放」という空間対比がなく、中間的に「明るい」中間的に「独立」と、すべてが均一な単位空間となった。

③現代型住宅は、奥の間、玄関、応接間などが最小限に切り捨てられ、非日常象徴空間が消滅し、恐い・悲しい・厳粛などの濃やかな情緒のある空間を失った。

これらの流れは、現代型住宅が合理主義・経済主義的概念により手術された、粗野な「住まいの原形」に過ぎないことを示してくれる。この「住まいの原形」の各単位の空間的に明確な特徴を持たせ、総合化する家の骨格を与えることにより、現代型住宅を文化的なイメージのある住まいとすることが本研究の課題となった。

2. 心理的空間群をどんな形で構成するか

伝統的な住宅では、印象深い場所の第1位に、内と外・部屋と部屋を連結する土間や通り庭や中廊下が挙げられ、住宅に必要な心理的空間の第1位は心理的空間群を構成する「家の骨格」であった。

西欧の影響による近代化の過程で、日本と韓国はそれぞれが持っていた伝統的住宅の「家の骨格」に影響され、日本では廊下を残存させ現代型＝公私分離型へ、韓国は中庭をLとして残存させLホール型へと分岐した。しかし、この公私分離型とLホール型への分岐の成否は、日本の廊下は最小限化された段階、韓国のLホールは中庭が室内化した段階で、「家の骨格」としての意味を喪失するわけで、住宅の近代化の流れを振り返るとき、当然再考されるべき課題となろう。

多摩NT〈南大沢〉での3LDK以上の規模の住戸を

対象とした調査では、子供年齢10歳以下の家族には公私分離型は私室が公室から遠く使いにくいこと、子供年齢16歳以上の家族にはLホール型は私室と公室が近過ぎ使いにくいことがわかった。

今まで〔公私分離型〕の欠点が問題とならなかったのは、住宅取得が子供年齢10歳程度の性別就寝を必要とする家族中心に行われたこと、住戸規模が小さく居間と私室が遠い関係とならないことなどによると考えられる。しかし、新婚世帯・幼児の居る世帯・大学生の居る世帯・3世代世帯など、様々な住宅取得形態の出現や住戸規模の拡大に対応するためには、若い家族向けの〔Lホール型〕、子供年齢に幅広く対応できる〔1室外れLホール型〕〔Lホール立体型〕、独立度は高く疎外感は少ない〔公私+屋根裏室型〕など、〔L〕を中心とした空間構成を持つ型も供給されてよいと考えられる(図-24)。

3. 住居に求められる心理的空間とは

現代の住居に求められる心理的空間として、圧倒的1位に「広い・明るい空間」(＝居間)が選ばれ、2位もほぼ同様に「広い・明るい・落ち着いた空間」(＝私室/和室・洋室)が選ばれ、気に入っている空間という意味では、現代は既に〔L〕を中心として家空間が構成されている。

これはインテリアに空間的特徴がある例でも同様で、居間が吹抜けの場合、「広い・明るい」のほかに「ゆとり・開放的・気持ち広がる空間」、また、私室が屋根裏室の場合、「広い・独立性」のほか「独立度大・ワンルーマンションのような空間」などの表現が見られる。

これらは、単なる居間・私室といった機能対応の空間に対する心理の表れとみることもできるが、一方で家のイメージには大きな差をもたらす。

インテリア空間にも外部空間にも特徴のない例では、家のイメージは「日当たりが良い・使いにくい」など機能上・実用上の表現となり、外部空間に特徴がある例では、「入口のアーチ＝高原の別荘、広い植栽付バルコニー＝都会的」など、外部空間の特徴が家のイメージに影響を与える。また、インテリア空間に特徴がある例では、居間吹抜けと関連して、居間入り階段が意識されると「金

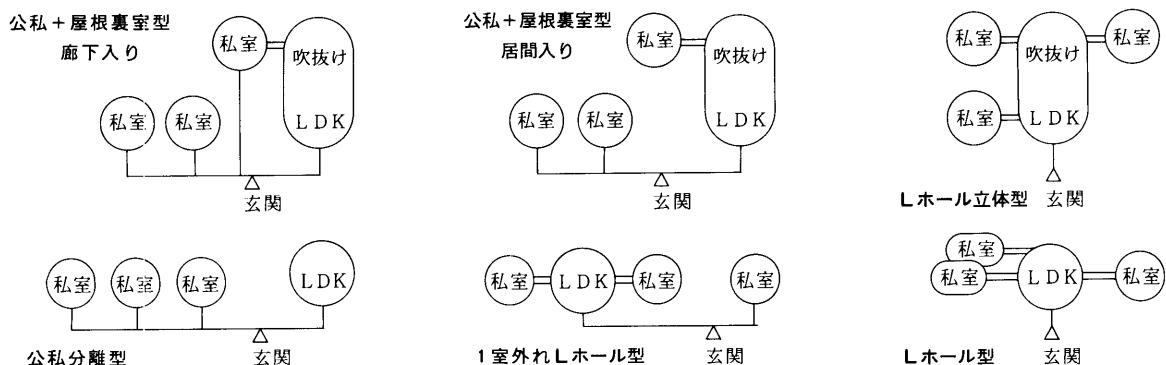


図-24 家の骨格の断面的ダイアグラム

持ち」, 空中廊下が意識されると「リゾート気分」, 巨大な吹抜けが意識されると「奇想天外」, ガラス屋根が意識されると「町工場」, 屋根裏室が意識されると「ママはアイドル」など具体的な「家のイメージ」が挙げられた。

このことは、「居間吹抜け=家のゆとり」といった空間=心理対応を評価するのではなく、「居間吹抜け」は他の空間的特徴と結びついて「家のイメージ」を決定する主要な心理的空間であることを評価すべきであろう。

4. 操作概念としての家のイメージ

現代の住宅の担い手である30~40代の人に憧れの家について調査した。主婦は「システムキッチン・大きな収納」「白い外壁に赤いレンガの家・ペパーミントグリーン洋館」などのプレハブ住宅の宣伝に出てくるようなものに憧れる。絵のイメージ調査でも、家のインテリアとして、主人は自然・和風、主婦は自然・居間階段型などの居間吹抜けタイプを好む。しかし、若い世代と比較すると、天井の低いタイプもかなり好み、家の外観もプレハブ住宅の一般的な形態を好む傾向がみられた。

これに対し大学生は、「豪華な家具・回り階段・シャンデリア」「三角屋根」など装飾的な要素への志向がみられ、女子は「自然の中・湖のほとり」などの自然メルヘン志向、男子は「機械の家・未来の家」などの未来志向もみられ、30~40代より「家のイメージ」に対する志向の強さが感じられる。また、絵のイメージ調査では圧倒的に居間吹抜けタイプを支持し、特に男子はモダンな吹抜け、女子は和風を選んでいる。

〈南大沢〉で見られた、「ゆとりのある家」(居間吹抜け=気持ち広くなる)といった心理的観点から、「オシャレな家」(居間吹抜け+α=金持ちの家・かっこいい)といったイメージ感覚への展開は、世代の変化とともに強まると感じられる。「家のイメージ」と心理的空間の対応を研究し「家のイメージ」を設計上の操作概念とすることが、今後の重要な課題と言えよう。

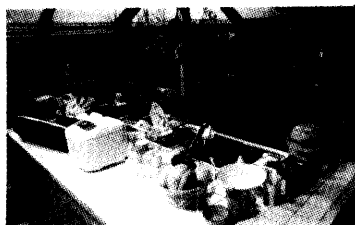
写真-10

「居間階段」
(恋のパラダイスより)



写真-11

「ガラス屋根」
(恋のパラダイスより)



おわりに

今回の研究では現代型住宅の例として、多摩NT〈南大沢〉を対象としたため、居間中心の室構成、居間吹抜けと関連したデザインを評価することになった。その意味では「居間吹抜け型」は高い評価が得られたが、他の新しい形式が対象となればまた異なる型も示唆される。この面ですらにスタディが必要と言えよう。

また第1章では、家というものは、本来家族の葛藤・先祖の重み・悲しい・恐い・抑圧・単調などの印象もあり、現代は表層的・楽しいこと・家族仲良くといった思想でのみ家をつくり過ぎたきらいがあることを感じさせる。この面からの展開も必要となろう。

第4章については、人間が住宅と関わり形成される住意識の心理体系が、単なる人気動向調査より意味があると考えられる。5歳童話作用・10歳現実化・15歳具体化・20歳差別化などの家への憧れ過程、現実の問題や社会的常識などと、住居選択の関連も今後の課題となろう。

また家は20年といった耐久年限に関わらず現時点で放映されているテレビドラマ、広告、アニメなど様々なメディアの影響が見られ、家も自動車やファッションと同様に大衆操作論的な観点から検討されうることが感じられた。これも重要な検討項目となろう(写真-10・11)。

本研究では、「居間吹抜け型」の積極的評価はできたものの、家空間の現象学としての原理的な体系整理はできず、また、心理対応設計方法についてもその概略・筋道を示すにとどまった。引き続き研究を深めていきたい。

〈謝辞〉

なお本研究では、川崎の農家は昭和女子大学竹田喜美子先生、京の町家は京都大学高田光雄先生、同潤会の茶の間型住宅は昭和女子大学平井聖先生、韓国の住宅は漢陽大学朴勇換先生、現代型住宅等については鈴木成文先生はじめハウジングスタディグループの諸氏ほか、様々なかたがたにお世話になった。ここに感謝の意を表したい。

〈研究組織〉

主査	友田 博通	昭和女子大学	助教授
委員	金子 友美	昭和女子大学	助手
	高嶋 玲子	昭和女子大学	大学院生
	山崎由美子	昭和女子大学	大学院生
協力	海老沼かおり	昭和女子大学	学生
	藤井 光子	昭和女子大学	学生